



小原校長へ宣誓する代表新入生

誇りを胸に仲間と歩む

盛岡二高 入学式 190人が新たなスタート

県内の高校は9日、入学式のピークを迎えた。県立盛岡二高（小原貴人校長）も盛岡市上ノ橋町でも、式が行われた。真新しい制服に身を包んだ入学生190人が、新たなスタートを切った。

県内の高校は9日、入学式のピークを迎えた。県立盛岡二高（小原貴人校長）も盛岡市上ノ橋町でも、式が行われた。真新しい制服に身を包んだ入学生190人が、新たなスタートを切った。

新入生を代表し、宣誓した佐藤詩華さんは「進取・清楚・強健の白梅精神（校訓）のもと、自覚と責任、何より誇りを持ち、仲間と歩み始める。将来、社会で輝く女性を目指し、1日1日を大切に積み重ねたい。新入生一同、素晴らしい学校環境のもとで、仲間と切磋琢磨（せつさたくま）し、一人ひとりが生まれ持った個性を伸ばし、日々、感謝の気持ちをお忘れずに、それぞれの夢や目標の実現に向けて全力で取り組む」と誓った。

小原校長は式辞で、可能性に挑戦すること、仲間を大切にすることを二高の心構えとし、「これからは二高生として、多くの方々注目される。その自覚を忘れず、仲間たちと力を合わせながら、自らの可能性に挑み続けて」と鼓舞した。

新型コロナウイルス感染症対策として、来賓、保護者の出席を制限。代表して祝辞を述べた廣田いずみPTA会長は「これからの3年間は人生の基盤を作る大切な期間。どんな人間になりたいのか、何をしたいのか、そのためにできることは何か、自分で考え続けて。どうか、毎日大切に過ごして」と呼び掛けた。

式の終わりに、二高音楽部24人が登壇。感染症対策の上で、旧校歌の「ユキマニニオウ」を合唱。晴れの日に花を添えた。

保護者の出席は、入学生1人につき1人と制限した。出席した市内在住の母親（48）は「去年はコロナで中学校行事ができなかったが、（式があつて）無事、高校生になれたのだなと感慨深い。本人の強い希望で二高を選んだ。今後の3年間はあつという間だと思つが、将来を一緒に考えていけたら」と目を細めた。

盛岡タイムス 令和3年4月10日

この記事・写真は、盛岡タイムス社の
許諾を得て転載しています。